備えて安心!STOP住宅火災!

備えて安心! 1 着衣着火による火災が急増中!

火災から身を守る防炎製品の使用を!

着衣着火とは、調理中のこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいいます。近年、着衣着火の件数・死傷者数が共に急増しています。中でも女性の着衣着火は、男性の2倍以上の件数が発生しています。また年齢別では、80代が最も多く発生しています。

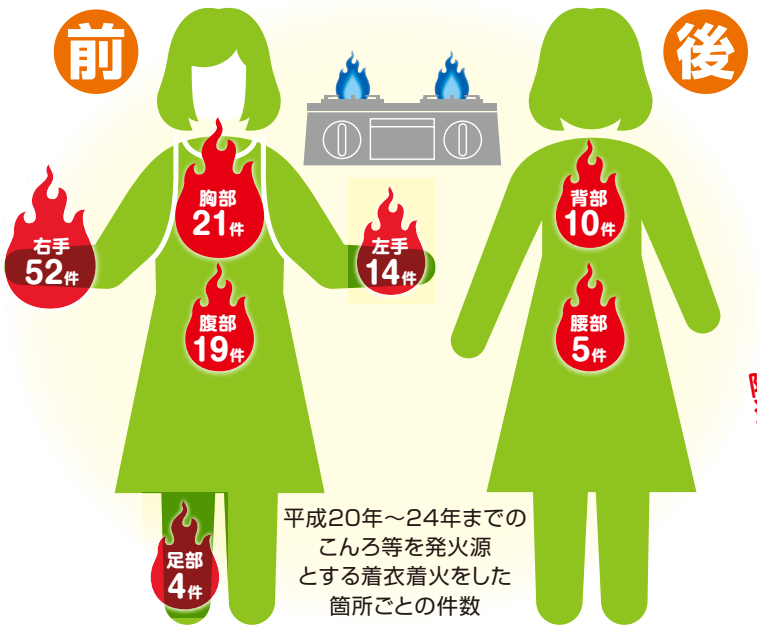
こんろ等で着衣着火をした体の部位

住宅火災で、こんろ等を発火源とする着衣着火した箇所です。こんろ等を発火源とする火災が、着衣着火の6割以上を占めています。

着衣着火事例

◆鍋を温めている際に、こんろの奥の炊飯器に手を伸ばしたところ、袖に着火。[80代男性/程度:軽症]

◆こんろで調理中、後ろの冷蔵庫から食材を取り出そうと振り返ったところ、服の背中部分に着火。[50代女性/程度:中等症]



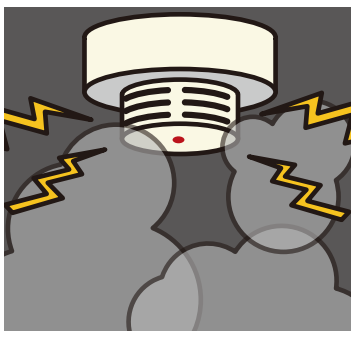
平成20年～24年までのこんろ等を発火源とする着衣着火をした箇所ごとの件数

防炎製品って何?

防炎製品は、火が接しても着火しにくく、燃え広がるのを防ぎます。防炎製品には寝具類、エプロン、アームカバーなどがあります。防炎製品は、防災館(池袋・本所・立川)ほかホームセンター等で購入できます。詳しくは最寄りの消防署におたずねください。

防炎製品ラベル

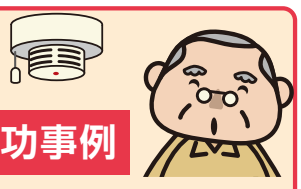
備えて安心! 2 住宅用火災警報器を設置しましょう!



火災が起きたとき、いち早く気づくことがとても重要です。

住宅用火災警報器は、火災の煙や熱を感知して警報音などで知らせます。隣人や通行人が、警報音に気づいた例も多く、早期の通報や初期消火に貢献しています。

奏功事例



◆住人が、たばこの火種が布団に落下したことに気付かずに外出したため出火。近隣住民が住宅用火災警報器の警報音を聞き付け119番通報をしたため、ぼやで済んだ。

設置義務と寿命

法令により、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。設置していない方は、早期に設置してください。

また、住宅用火災警報器本体にも寿命があり、メーカーでは、設置後10年を経過した機器は交換するように勧めています。

備えて安心! 3 住まいの防火防災診断!

東京消防庁では、民生児童委員など地域の皆様と連携して、高齢者や身体が不自由な方のお宅を訪問し、防火防災に関するアドバイスを行っています。ご相談・ご質問等は、お気軽に最寄りの消防署にお問合せください。

発見された火災危険例

◆こんろの周りに多量の可燃物があり、引火の危険性があった。

◆ガストーブのホースに亀裂があり、ガス漏れの可能性があった。

診断項目の一例

【火災予防】
暖房器具やガスコンロなどの使用状況、住宅用火災警報器の設置状況など

【地震対策】
家具類の転倒・落下・移動防止対策の実施状況など

【家庭内事故】
階段、床等の転倒危険個所の状況、浴室内事故の危険性など

※訪問する場合は必ずご本人の同意をいただきます。